

感染症予防対策講じて厳かに

角館總鎮守神明社例祭 勝楽山成就院薬師堂法楽

新型コロナウイルス感染症の影響により例年と違った形で行われた「角館祭りのやま行事（角館のお祭り）」。

角館總鎮守神明社では、9月7日に関係者のみが出席する中、無病息災などを祈り当日祭が行われました。

勝楽山成就院薬師堂では、8日に僧侶が読経を上げる法楽が行われ、9日はみこしが各丁内を巡行しました。



参拝は代表者のみが見舞い、閉々で行われました。写真は薬師堂の参拝の様子。



9月としては珍しい猛暑の中、神明社のみこしが角館町内を巡行しました。



神明社で行われた当日祭。



参拝には、各丁内の代表者のほか数名の同行者が訪れました。写真は神明社の参拝の様子。

この人に

ちよっとインタビュー

田沢で活躍する 作詞家・浦山庄作さん

田沢湖田沢在住の作詞家・浦山庄作さん。89歳になる現在も精力的に活動続ける浦山さんにお話を伺ってきました。

きっかけは園歌

浦山さんは元田沢湖町職員を務めながら町立保育所の園歌「みんなの保育園」の作詞を手がけたことをきっかけに、いろいろ書いてみようと思い始めたそうです。昔からリズムカ的な言葉が好きで思ったことを書きだしていたとのこと。

若い頃に「ここに幸あり」などで知られる故高橋掬太郎氏に師事し、(一社)日本童謡協会や(一社)日本音楽著作権協会に入会し、童謡を中心に民謡や田沢湖町民歌、田沢小学校校歌などを作詞しています。詩が先で後から曲がつけられるので、「始めはどんな曲になるかわからない。曲を聞くとよく作ってくれたな、作ってよかったなと思つ」と楽しそうに話してくれました。10編に2.3編ほどしか自分も納得いくものができないうえです。

全国で高い評価

浦山さんの作品は全国的に高い評価を受け、童謡では日本童謡協会主催の童謡祭で歌われたり、民謡では(公財)日本民謡協会が募集する新作民謡の優秀作品に選ばれています。ほかにも昭和49年の宮中歌会始詠進歌(お題「朝」)では佳作、詩集「詩のランドセル 東北篇3・4年」には、詩「かまくら」が出版されるなどの活躍もされています。

喜びは思いがけず

昨年9月の新歌舞伎座開場60周年記念福田こうへいコンサート2019では、浦山さんが22年ほど前に作詞した「チャグチャグ馬子」が披露され、浦山さんは「夢にも思っ てみなかった。福田さんのふるさとのチャグチャグ馬子に何かひかれるものがあつたのかも知れない。福田さんに感謝したい」と喜びを話してくれました。

歌い続けられる嬉しさ

これまでどのくらい作詞したのかお伺いすると「数えたことはないが



作詞への思いを熱く語ってくれました。

300編くらいかな」と、作品の一部を見せてもらうと情景や思いを表現するために言葉の一つひとつが丁寧に選ばれ、その言葉の引き出しの多さに驚きました。

作詞する楽しみを聞くと「順調に言葉が出てくると楽しく、そんな時は一晩で書き上げる。忘れてしまわれることなく世に出てくれて、歌い続けられていることが嬉しい」と話しました。現在でも浦山さんの詩に曲がつけられた音源が贈られてくるので、「先日、クニマスを題材に作った詩に曲がつけられて送られてきたと教えてくれました。これを子どもたちが歌って録音できたらなと今後の展望も話っていました。



一般財団法人自治総合センター

災害時に

コミュニティ助成(宝くじ助成)事業を活用し防災資機材を導入しました

田沢湖地区の横町町内自主防災会では、一般財団法人自治総合センターの宝くじ社会貢献広報事業である「コミュニティ助成事業」を活用し、災害時に必要な防災資機材を整備しました。

今後は、地域住民の防災意識の向上が期待されます。

コミュニティ助成事業とは

一般財団法人自治総合センターが宝くじの社会貢献広報事業の一環として、地域社会の発展と住民福祉の向上に寄与するために実施している事業です。



救助工具箱や四つ折り担架、移動かまどなど導入した防災資機材。



不戦の誓いを新たにしました。

令和2年度 仙北市戦没者追悼式

9月1日、仙北市角館交流センターで、令和2年度仙北市戦没者追悼式が厳かに行われました。

今回は、検温やアルコール消毒など新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じての開催となりました。戦争で亡くなられたご英霊のご冥福を祈りながら、参列者の皆さまより献花が行われました。

戦後75年が経過し、ご遺族の高齢化が進む中、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に語り継いでいく活動を続けていくことを誓いました。